

ねことおしるこ

小川未明

青空文庫

「お姉ちゃん、お姉ちゃん、たいへん。」と、まくらをならべている正ちゃんが、夜中にお姉さんを起こしました。よく眠入っていたお姉さんは、何事かと思つて、おどろいて目をさまして、

「どうしたの、正ちゃん。」と、いまにも立ち上がろうとなさいました。

「あれ、たいへんじゃないか。」と、正ちゃんは、大きな目をあけて、耳をすましていました。

「なにさ、なにがたいへんなの。」

「アオン、アオンといっているだろう。あれは、黒いどらねこだよ。そして、ニヤア、ニヤアといっているのは、三毛なんだよ。」

正ちゃんは、ねこのけんかで目をさましたのでした。小さい三毛が、大きな黒ねこにいじめられているので、たいへんだと思つたのです。

「ねこのけんかでしょう。そんなことで、人を起こすものがありますか、びっくりするじやありませんか。」と、お姉さんは、正ちゃんをしかったです。正ちゃんは、お床の中で、しばらく黒ねこと三毛ねこのけんかをきいていましたが、我慢がしきれなくなつて、

「しっ!」と、どなりました。

そのうちに、ねこのなき声こえがしなくなりしました。

「わるいどらねこだな。こんど見みつけたら、石いしを投なげてやるから。」

そういつて、正ちゃんしょうちゃんは、眠ねむりましたが、お姉さんねえさんは、なかなか眠ねむれませんでした。明あ

くる日の朝あさ、みんなが、テーブルの前まえにすわったとき、

「あんなことで、起おこすものじゃなくてよ。」と、正ちゃんしょうちゃんは、お姉さんねえさんにしかられまし

た。ところが、その日の午後ごごでありました。お姉さんねえさんが、学がっこう校から帰かえつてくると、往おうら

来いで遊あそんでいた正ちゃんしょうちゃんが、遠とおくから、見みつけてかけてきて、

「お姉さん!」と、呼よびました。これを見みた、お姉さんねえさんは、思おもわずにつこりなさいました。

正ちゃんしょうちゃんは、やつと、お姉さんねえさんに近ちかづく、

「お姉ちゃんねえちゃん、おしるこがあるよ。だけど、たった、一杯ぱい!」と、大きな声こえで、いいまし

た。歩あるいている人ひとが、これをきいて、笑わらつてゆきました。お姉ねえねえさんも、きまりが悪わるく

なりました。お家うちへ帰かえると、お姉さんねえさんは、

「なぜ、あんなみつともないことをいうの、人ひとが笑わらつてゆくじゃありませんか。」といっ

て、正ちゃんしょうちゃんをしかったです。

「ほんとうだから、いいだろう。僕、おしるこたべたいな。」と、正ちゃんしょうちゃんは、いいました。

「いいえ、もう、あんたはいけません。」と、お母さんかあがおつしやいました。

正ちゃんしょうちゃんは、外へ遊びにゆきました。それから、だいぶ時間じかんがたちました。そのうちに、日が陰かげつて、風が寒かぜさむくなりました。

「さつき、正ちゃんしょうちゃんは、セーターをぬいだのよ。寒さむくなったから、呼よんできて、着きせておやり、かぜをひくといけない。」

こう、お母さんかあが、おつしやったので、お姉さんねえは、正ちゃんしょうちゃんをさがしにゆきました。しかし、どこにも、その姿すがたが、見みつかりませんでした。

「いませんのよ。」と、お姉さんねえは、帰かえってきました。

「赤土あかつちの原はらっぱにも。」

「ええ、原はらっぱにも、お宮みやの境内けいだいにも。」

正ちゃんしょうちゃんは、よく、その原はらっぱや、お宮みやの境内けいだいで、お友だちともたちいろいろなことをして遊ぶあそぶのです。

「どこへいったでしょう。こんなにおそくまで遊あそんでいることは、ないのに。」と、お母さんかあ

さんはおつしやいました。

「私、心配だから、もう一度見てくるわ。」と、お姉さんは、目に涙をためて、お家を出ました。昨日から、いろんなことで、正ちゃんをしかつたのを思い出して、悪いことをしたと後悔しました。なぜなら、それは、正ちゃんが、無邪気であつたからです。

「ねこのけんかも、おしるこのことも。」と、お姉さんは、歩きながら、考えました。そのとき、あちらから、子供たちの声がして、わあわあいつて、きかかる中に、正ちゃんもいたのです。お姉さんは、やっと安心して、そのそばにまいりました。

「正ちゃん、どこへいつていたの？」と、お姉さんは、ききました。

「本屋の二階で、学校ごつこをやつていたのさ、僕は、算術が七点で、読み方が八点で、三番だ。えらいだろう。」と、正ちゃんは、いいました。

「だめよ。もつと、いいお点をとらなけりや。」と、お姉さんは、しかつてから、はつと
して、いつも弟に小言をいう悪いくせに気がついて顔を赤くしました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2011年12月1日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ねことおしるこ

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>